

日韓の印刷教育研究

－最近の動向－

国際印刷大学校 木下堯博*

日本の印刷事情特に「デジタル分野」を研修するために2011年11月16日に韓国印刷メディア系学生・生徒及び印刷担当教員、ソウル印刷情報協同組合（ソウル印刷センターを含む）役員らが来日した。一行は印刷博物館、富士ゼロックス、富士フィルムショールームなどを見学及び討論を行い、今日のデジタルメディアの現状と今後の動向について意見交換をした。昨年は小森コーポレーションを始め、水上印刷(株)多摩工場を見学(1)などでしたが、本年は発展著しいデジタル印刷の研修により、印刷のアナログとデジタルの両経験を拡大しようとする目的で、世界の水準を先駆けている日本の印刷技術を学んだ。

南元浩理事長（ソウル印刷情報協同組合）は韓国富士ゼロックスとの協力を得て、各教育機関の印刷メディア系学生・生徒の選抜し、ソウル工高5人、ソウル北工高5人、新丘大学2人、中部大学校2人、釜慶大学校2人、高等学校引率教師2人の他、韓国富士ゼロックス2人、ソウル印刷情報協同組合2人からの合計22名の構成員であった。

初日の見学先である印刷博物館で印刷教育研究会から三浦澄雄氏、筆者らが出迎え、歓迎の辞を述べた。(2)(写真1)

翌11月17日には渡韓し、18日にソウル印刷会館で開催の韓国印刷学会秋季研究発表会に参加した。一週間前の11月11日は大阪・モリサワ本社会議室(3)で開催された日本印刷学会秋季研究発表会(西部支部担当*)にも出席した。

本年度の日韓の印刷研究内容の比較では前者の韓国の演題は印刷技術中心(写真2)の内容(例えばG7(4)など)に対し、後者の日本に於いては材料研究が重点的であり、世界の印刷研究の発表の場であるTAGAやIARIGAI及びアメリカ印刷教育学会などとの乖離が進んでいるように思われる。現状の日本では印刷のあらゆる分野での研究者、教育者、技術者などの人材の育成が急務であろう。また、韓国のように印刷メディアを学んでいる日本の学生・生徒らの海外での研修や交流を積極的にするために印刷教育研究会や学会などでの推進活動が期待される。

印刷ジャーナル新年号原稿(2011年11月27日記)

参考文献

- (1) 木下堯博；韓国印刷メディア系学生らの来訪；印刷教育研究会会報No.84(2010年12月1日)
- (2) 木下堯博；日韓印刷文化と印刷教育；印刷教育研究会会報No.85(2011年2月4日)
- (3) 研究発表会場はモリサワ本社の4階、5階はMORISAWA SQUAREがあり、印刷の貴重な資料が展示され、同時にRISA PRESSの最新のデジタル印刷機でデモなど実施。
- (4) ソウル印刷センターではアメリカからIDEAllianceのFazzi氏ら(写真3)が来韓していて、G7の講座(4日間)が開かれていた。本学ではG7の研究会をIPEX2010以降、継続している。三浦澄雄氏の国際印刷大学校研究報告第11巻(2011年3月刊)参照。

* PAGE2012のOpen Eventではこれらの報告会を2月8日に行う。www.media-igu.com

* 日本印刷学会西部支部でお世話頂いた故滝本靖之、故原田博朗、故大友誠各氏の哀悼の意を表します。



写真1 中央はソウル印刷センター申益宰氏、左から2番目筆者
(印刷博物館にて、2011年11月16日)



写真2 韓国印刷学会秋季研究発表会発表者と役員
(ソウル印刷情報会館、2011年11月18日)



写真3 アメリカからG7指導のため Fazzi 氏らの来韓
(ソウル印刷センターにて、2011年11月18日)